



深川社協だより

ふかわ

第 **60** 号
2023.3.1

絵は河野香代美さん（深川1丁目）

■編集発行 深川地区社会福祉協議会広報部会

「地域自然治癒力の理解」～お宝発見の意味付け～
深川地区社協理事会は、去る11月26日（土）、酒井 保
様（近所福祉クリエーター）を講師としてお招きし、
右記のテーマでお話をお伺いしました。



研修会で特に印象に残った
ことを述べてみたいと思います。

【要旨】 『2025年問題』という事が言われています。
国民の3人に一人が65歳以上、5人に一人が後期高齢
者になります。これって高齢者の課題ではなくて、実は
次世代の子どもの課題です。（この問題って2年先!?!
そして40年先まで続くそうです。）子ども達の課題であ
れば子ども達のために「何をやる」べきか。一つは若い
世代に負担をかけないため、健康であること。あと一つ
はみんなが人間関係を持ち支え合う「社会性」を持つこ
と。私たちの周りにはいろいろな関わり合いがありま
す。社会参加（地域の関わり合いやグループ活動に参加
する等のつながり）が、その人の生活満足度を高め、精
神的健康状態がよくなります。参加者が役割を持ち、「あ
りがとう」とお互いに言えたら、幸福感がすごく上がる
らしいです。この幸福感が健康寿命にとっても関係してい
るそうです。

「コロナだからできない、やらない。」という高齢者
の過剰な自粛は社会性や運動機能の低下を招きます。
「社会性」が育まれることの重要性を再認識し、地域の
宝をさらに育てていきましょう。』

【演習】 研修への参加者が、どんなかわりの会やグ
ループがあるか書き出してみました。何十と出てきまし
た。いくつかを発表してもらいました。深川地区の魅力
を知ることができました。

深川地区社協 会長 山口 悦朗

高陽公民館祭りに展示しました。

==二 深川社協広報紙「ふかわ」に見る深川社協の歩み ==二



広報紙「ふかわ」展示年表

平成5年「創刊号」	ふれあい会食会と配食
平成6年「第2号」	アジア大会
平成6年「第3号」	敬老会
平成7年「第4号」	こども110番
平成10年「第10号」	亀崎神社神楽殿倒壊
平成12年「第14号」	子どもの目
平成12年「第15号」	いきいきサロン始まる
平成14年「第18号」	ボランティアバンク
平成15年「第20号」	福祉のまちづくり準備
平成16年「第23号」	大規模防災訓練実施
平成18年「第26号」	深川小学校 学校林
平成21年「第32号」	お正月遊び
平成24年「第38号」	ありし日のわが町ふかわ
平成30年「第50号」	豪雨災害
平成30年「第51号」	深川で暮らしたい
平成31年「第52号」	介護サポーター講座
令和元年「第53号」	ふかわ子ども食堂
令和3年「第56号」	

※ 公民館祭りで展示した広報紙の主な記事を年表に致しました。

展示の作業にあたって

平成5年の創刊号から59号までの「ふかわ」のうち、それを展示に取り上げるか、社協と深川の主な出来事をひろいあげていきました。安佐北区スポーツセンターが卓球会場になったアジア大会や敬老会の開始、いきいきサロンの開設、台風や豪雨災害など、30年近くの歴史を振り返ることになりました。

「ふかわ」は発行された実物を展示しようということになりましたが、創刊号などは一部しか残っておらず、傷つけないように注意しながら貼っていきました。それぞれの記事には説明を加えたり関連した写真を添えたりして、興味を持っていただけるよう努めました。今はもう故人になられた方々の名前や、知人の若い時の姿に出合ったり、思い出話に花を咲かせながらの作業となりました。

ご覧になられた方が、「ふかわ」を懐かしく思い出してくださいました。幸いです。

福祉委員 東 美貴子



民生委員児童委員の

一斉改選について

昨年の12月、3年に一度の民生委員児童委員の全国一斉改選が行われ、深川地区も少し移動がありましたのでお知らせいたします。

まず、次の3名の方が退任されました。

藤井真理子さん(下庄地区)、小島多喜子さん(尾和地区)、牛尾孝慈(院内地区)。

後任として、小田通子さん(下庄地区)、山村圭司さん(尾和地区)、榎谷省三さん(院内地区)が就任されました。

その他の地区は変更はありませんが参考までにお名前を記しますと、山村佳子さん(上庄地区)、林孝治さん(西塚地区)、増井俊博さん(中郷地区)、戸澤孝子さん(陰地、奥迫地区)、主任児童委員の岩本秀子さん(深川地区全般)も引き続き担当されます。

それから深川台地区の民生委員児童委員として新たに岡崎雅子さんが就任されました。この経緯について少しふれますと、これまで深川台地区は陰地・奥迫地区と合わせて一人の民生委員が担当して



おりましたが、世帯数も多く民生委員活動の負担が大きく、以前より広島市の方へ増員の申請をしておりました。昨年の9月の市議会で承認され増員が決定した次第です。深川台の皆様にはご理解と、今後のご協力をよろしくお願い致します。

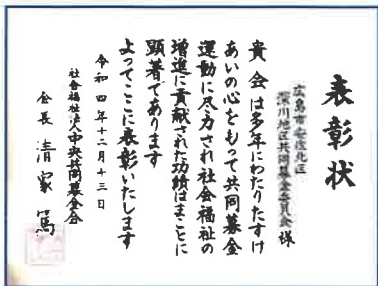
最後になりましたが、この度、退任いたしました3名に成り代わりまして、在任中地域の皆様に大変お世話になりましたこと、篤くお礼申し上げます。有難うございました。

牛尾孝慈

赤い羽根共同募金のお礼

令和4年10月1日から12月31日まで赤い羽根共同募金にご協力いただき有難うございました。深川地区においては、六十八万三百五十円のご支援をいただき、安佐北区社協を通じて共同募金会へ送金いたしました。

赤い羽根共同募金は、一部が還元され、地域の福祉活動の財源となります。皆様のご理解と一層のご協力をお願いします。



G7広島サミットに 折り鶴を

昨年9月に深川2丁目で、おうちサロンを立ち上げられた「銀杏の会」のメンバーが5月に開催されるG7広島サミットに向けて世界の平和を祈りながら折り鶴を折られています。



愛のともじび

深川地区社会福祉協議会に対し、福祉事業の活動にお役立てくださいと、次の方々から香典返し他のご厚志をお寄せいただきました。皆様の善意に厚くお礼申し上げます。(令和四年八月〜十二月)

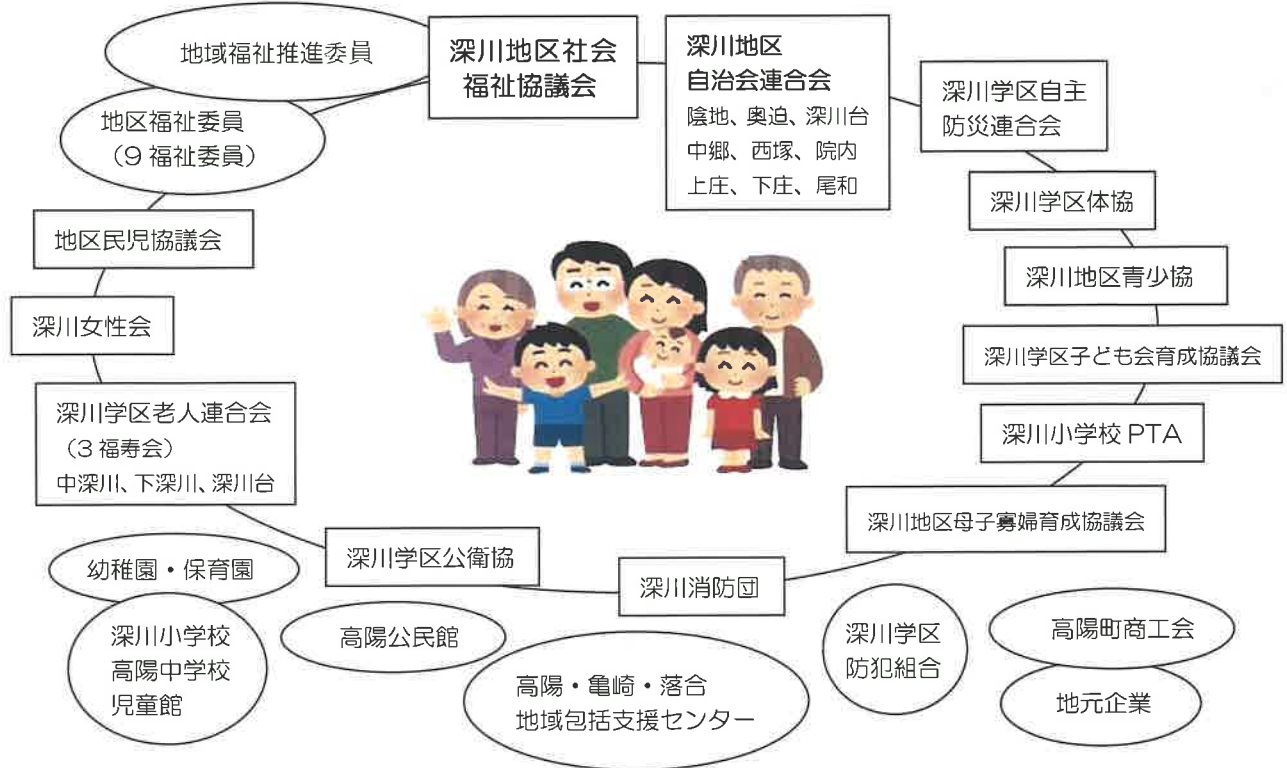
- 榎谷 省三 (深川四丁目)
- 友廣 伸子 (深川三丁目)
- 古河 定男 (深川七丁目)

(受付順 敬称略)

お寄せいただいた募金は深川地区社会福祉事業の活動に役立てさせていただきます。【深川地区社会福祉協議会】

深川地域コミュニティのおはなし

私たちがすんでいる深川には、地域みんなが笑顔で暮らせる元気なまちをつくりたい。そんな思いを持って、地域をより良くするために活動する住民同士のつながりや、集団があります。自治会をはじめ民生委員児童委員の会、子どもの健全育成に尽力する会、健康増進に寄与する会・・・などです。深川に暮らす皆さんが構成員となって、安全・安心な地域づくりを行ってのりわけですね。これらのいろいろな組織や団体を地域コミュニティといいます。深川地区の地域コミュニティを表にしてみました。



ふかわの昔 ～下庄編～

下庄地区は下深川の最西端に位置し、三篠川、太田川、根の谷川の3つの川の合流点に接しています。この地区は約50年前までは田畑の中に家のある純農村地帯でした。

三篠川筋の下庄は、江戸時代には牛・馬で集められた米などが「河野の浜」(現深川橋のそば)から舟で広島に運ばれ、舟運の拠点として重要な役割を担っていました。又、川魚も豊富で鵜遣による漁が盛んだったようです。反面、3川の合流点でもあったので、大雨が降ると太田川の水が逆流し、田畑や家屋が浸水する水害の繰り返しでした。この地域の昔からの家が平地でなく石垣の上に建っているのは、水害から家を守るためなのです。昭和40年代に土手が整備されて以降、水害が無くなった結果、田畑は住宅地に変わり、団地から可部に通じる大きな道路の通る賑やかな地域となりました。このような変化の中で地域の人々が大事に守ってきたものがあります。「下庄の地蔵さん」と「子安地蔵」です。

下庄の地蔵さんは諸木と玖境の山の中で峠を越える人々を見守っておられました。団地造成の際に現在の古道わきに移られました。同じく山のなかの子安地蔵も現在の地蔵堂に移られました。人々は子育ての地蔵様として、年一回お祭りを行うなど、これからも大切に守り継いでいくことでしょう。



子安地蔵堂

深川郷土史研究会

升尾 成美